
7 <水球陣>関東学生リーグ第6戦

H26.6.22 対慶應大 @慶應大学日吉プール

東大 1 1 3 1 計 6

慶應 2 2 5 3 計 12

得点者：桐生(1)、浪間(4)、池亀(1)

負ければインカレ出場を逃してしまうこの試合。試合前に何度も相手を分析し、万全の作戦を立ててこの試合に臨む。インカレに向けて後がないだけに、チームの中に緊張感が生じている。

第1ピリオド

前半、東大は疋田の好セーブから生まれたカウンターで山田のシュートがバーに当たって跳ね返ったところを浪間が拾い、相手に沈められながらもループシュートを決めて先制する。このまま流れを引き寄せたい東大だが、その後カウンターから失点してしまう。さらにパスミスからのカウンターなどでピンチを招くが疋田がゴールを死守する。なんとかリードを許さず第一ピリオドを終えたい東大だが、残り一分となったところで左からミドルシュートを決められる。

第2ピリオド

このピリオドの先制点がほしい東大だが、山田のパスミスによるカウンターで先制を許してしまう。さらにカウンターやフローティングから何度もシュートを打たれるも、再三の疋田のファインセーブにより、このピリオドは二失点で切り抜ける。一方、一点でも差をつめておきたい東大はピリオド終了間際、浪間がキーパーとの一対一を落ち着いて決め、二点差で前半を終える。

第3ピリオド

ピリオド開始直後、東大はポストプレーや退水から、立て続けに4失点する。得点がほしい東大は浪間にボールを集めるがなかなか点を取れない。終盤は右からのパスを浪間が二本決め、さらに池亀のミドルで追い上げ、4点差としたところでピリオドが終了。

第4ピリオド

インカレ出場のためになんとしてでも逆転しなければならない東大は、早めに浪間にボールを送るが、逆にカウンターを出されて二連続で失点する。ピリオド中盤には主将の桐生が得点するがその後が続かない。結局最後まで相手ディフェンスを崩せず試合が終了した。

一次リーグでの敗戦の反省からカウンターを出されないような試合展開を狙ったこの試合。序盤はよく守れていたが第三ピリオドに5失点と崩されてしまった。一方のオフェンス面でも早めに浪間にボールを送ったがなかなか得点には至らず、思うような展開に持ち込むことができなかった。

最後に、監督を務めてくださった三宅さん、応援にいらしてくださった 林さん、吉田さん、田丸さん、只野さん、有吉さん、滝澤監督、ありがとうございました。

(文責 山田直人)
